

法政大学校友会 スポーツ強化支援 陸上競技部支援についての提案書

法政大学陸上競技部

監督 荻部俊二

駅伝監督 坪田智夫

テーマ「法政大学陸上競技部 箱根駅伝総合優勝を目指す」

2018年箱根駅伝において、法政大学陸上競技部は2年連続のシード権獲得を果たしました。また、出雲駅伝に加え、全日本大学駅伝予選会もトップタイムで予選突破し、昨年引き続き日本学生3大駅伝出場を決めました。この躍進は、法政大学校友会様をはじめ多くの大学関係者のご支援の賜物と深く感謝しております。

法政大学は伝統ある箱根駅伝に第2回大会から出場し、94回大会中78回の出場を誇る伝統校です。78回の出場は91回出場の中央大学、87回日本大学、87回早稲田大学に次いで4番目に多く。78回の出場のうち、往路優勝1回（1931年）、復路優勝（2006年）が1回あります。しかし、総合優勝はいまだ果たせていません。

現在、箱根駅伝は多くの大学が強化をはじめ、新興大学の台頭もあり本学陸上競技部はこれまで、たびたび出場権を逃し悔しい思いを重ねてまいりました。箱根駅伝が日本の正月の風物詩となり今や日本の文化的な行事となったことから、新興大学は高い知名度を誇る箱根駅伝を大学の宣伝に利用すべく、莫大な資金を投入し駅伝強化を始めました。豊富な資金を有する新興大学駅伝部は、その資金を最大限に利用し、選手獲得や合宿費用、治療費など有効に活用し力をつけてきています。そして、その勢いは留まることを知りません。伝統校は、この新興大学の強化に後れを取り、箱根駅伝本戦上位から取り残されていきました。近年は本学をはじめ、日本大学や専修大学、そして現在は明治大学や中央大学も新興大学に後れを取るようになっていきます。

明治大学は振興大学の強化をいち早く察知し、多額の資金をつぎ込み強化をはじめ、復活を果たしました。日本大学は2006年からケニアからの留学生を入学させ、国士舘大学や拓殖大学も留学生を走らせています。現在は、箱根駅伝出場に関わる6大学でケニアやエチオピアからの留学生を採用し、強化しています。箱根駅伝3連覇中の青山学院大学は、留学生はいないものの、新興大学並みの強化で今の地位を確立しました。また、総合優勝14回、87年箱根駅伝本戦連続出場を誇った中央大学は昨年、予選会で敗退し本戦出場を逃したことから、2018年から特待生制度を大幅に見直し、新興大学並みの強化に着手しています。

本学陸上競技部は2018年、箱根駅伝本戦6位でシード権を獲得、さらに全日本大学駅伝予選会でトップ通過と息を吹き返してまいりました。昨年は箱根駅伝本戦8位、全日本大

学駅伝予選会は 5 位通過でしたので強化が実り始めてきたのではないかと思います。安定した力をつけ、さらに上位を目指すには、この機を逃してはなりません。そして、悲願である総合優勝へ向け更なる強化していかなければなりません。しかしながら、本学陸上競技部の活動資金は十分とは言えません。昨年は校友会様からのご寄付を賜り、合宿費用に充てることができました。しかし、他大学と比較しても本学の駅伝運用資金は未だかなり低い水準にあります。

法政大学校友会様におかれましては多大なるご支援、ご声援を賜り厚く御礼を申し上げます。法政大学陸上競技部は校友会の皆様とともに箱根駅伝を戦っていく所存です。つきまして、今後のご支援について以下の駅伝強化策に基づいてご検討いただきたくお願いいたします。

1. 選手強化

合宿補助

年間夏 3 回、冬 1 回の合宿を実施しております。

1 回の合宿に 200 万から 300 万円ほどほかかります。

1 回分のご寄付をご検討いただけますでしょうか。

2. スカウティング

有望な高校生の獲得

スポーツ奨学生の制定をご検討いただけませんかでしょうか。

3. 目標

2018 年箱根駅伝総合 7 位→結果総合 6 位

2019 年箱根駅伝総合 5 位

2025 年までに総合優勝

校友会様にはいただいた寄付金の用途の報告、選手監督の会員様へのご挨拶ができればと考えております。また、箱根駅伝本戦後の慰労会へのご参加も引き続きお願いいたします。